

## 地上デジタル放送に向けて

### Developments in Terrestrial Digital Broadcasting

2000年12月に始まったBSデジタル放送に続き、地上デジタル放送が2003年12月からスタートしました。また、現在、地上デジタル放送による携帯端末へのサービスも計画されております。

もっとも身近な地上テレビ放送が、デジタル化されることの影響は非常に大きいと思われます。デジタル放送は、テレビのカラー化以上のインパクトを与えられていると言われています。それは単に、高画質化や多チャンネル化だけでなく、コンテンツのデジタル化に伴う影響が注目されているからです。また、地上デジタルテレビは、インターネット接続端子が標準装備とされていることから、テレビの位置づけが大きく変化することが予想されます。

一方、通信の分野に目を向けると、ADSL(非対称デジタル加入者線)を始めとしたブロードバンド化が急速に進み、動画配信が日常化しつつあります。このような動きとあいまって、放送と通信の融合が加速されつつあります。

これらの動きに呼応して、デジタルテレビ情報化研究会が2003年4月に発足しました。この研究会では、インターネットを用いて、テレビ受信機で各種のコンテンツやサービスを取得するための規格を検討しています。このように、デジタルテレビは情報ネットワークとのかかわりをますます強めています。

また技術的側面から見ると、デジタルテレビは、従来のLSI技術、映像信号処理技術、ディスプレイ技術などのほかに、コンテンツ保護のためのセキュリティ技術、画像・音声データの圧縮技術、通信技術など多岐にわたる技術を使用しています。このように、テレビもIT(情報技術)化時代に即した進化を続けています。

デジタル放送により、新たに双方向サービスや電子番組表(EPG)サービスなど、ますます便利なサービスが開始されています。また、録再型DVDや、ホームサバなどの新たなテレビの周辺機器も商品化されております。更に、テレビの表示手段も大きく変化しています。従来のブラウン管に加え、液晶ディスプレイやプラズマディスプレイなどの薄型表示デバイスが急速に拡大しています。このように、テレビに求められる機能や仕様も大きく変化し、時代に即したテレビの提案が求められております。

この特集では、他社に先駆けて発売した地上デジタル放送対応テレビD4000をはじめ、地上デジタルテレビを実現するために不可欠な多岐にわたる技術を紹介しています。ご一読いただければ幸いです。



田辺 俊行  
TANABE Toshiyuki